

新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。皆さまには健やかな新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。昨年1月1日付で学長に就任し、1年が経過しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、診療や家庭生活など通常の日常生活を送れない状況にあり、さまざまな面で不安を抱えておられることだと思います。

今回のコロナ禍はウイルスが相手です。目に見えない敵なので、より大きな不安や恐怖を感じやすくなります。今後はコロナと共存していく必要があり、ワクチンや治療薬が開発

されていますが、私たちの生活スタイルを変えることも大切です。感染防止のためには、密閉・密集・密接を避けること、手洗いやマスクを着けること、人と人との距離をとることなどが不可欠です。また、自分自身のこころのケアとしては、規則正しい生活リズムを維持し、リラックスする時間を確保し、孤立しないように友人や家族とのつながりを保つことが大切です。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で先が読めない状況ですが、答えのみつからない状況に耐えられる能力、「ネガティブ・ケイパビリティ」を養うことが人に寄り添い、共感を育む力になり、人間力を高めます。今をピンチと思わず、人として成長できるチャンスに変えてください。

久留米大学はコロナ禍の中だからこそ地域医療機関とのより密接な連携を推進することで、患者さんの治療の継続性の確保や医療情報の共有を図り、地域医療の発展に寄与したいと考えております。今後とも変わらぬ皆さまの温かいご支援をお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。

令和3年1月

久留米大学学長 内村 直尚

病院執行部体制

病 院 長	志波 直人
病院長特別補佐	八木 実
副 院 長	鳥村 拓司
	田中 芳明
	渡邊 浩
	福本 義弘
	高須 修
	赤木 由人
	野村 政壽
	上野 知昭

私たちの理念

人^{いのち}と地球にやさしい、生命を慈しむ医療

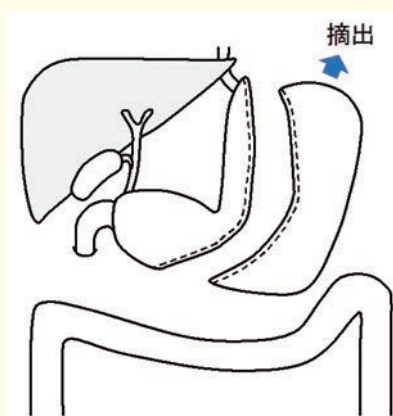
私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
2. 共生の医療
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
3. 高度で安全なチーム医療
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
4. 地域と共に歩む医療
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
5. 優れた医療人の育成
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

TOPICS 1

肥満症に対する外科治療「腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状胃切除）」

久留米大学消化器外科 講師 村上 直孝



腹腔鏡下スリーブ状胃切除術
シエーマ

肥満は糖尿病や脂質異常症・高血圧症・心血管疾患などの生活習慣病をはじめとして数多くの疾患をひきおこすことは広く知られています。肥満の程度はBMI (Body Mass Index = [体重(kg)] ÷ [身長(m)²]) を用いて区分され、わが国ではBMI: 25以上が肥満、35以上が高度肥満と定義されています。また、肥満に加えて関連する健康障害を併せ持つ場合などには肥満症/高度肥満症と診断されます。肥満症ではBMIが5増加するごとに、心血管系疾患の死亡リスクは49%、呼吸器疾患の死亡リスクは38%上昇し、QOLを損ねます。高度肥満症に対する治療は全世界的に外科治療が主体です。内科的治療の効果は軽微で一時的であるのに対し、外科治療は体重を20～32%減少させ、その効果は10年後でも持続されます。さらに、肥満外科治療は体重を減少させるだけでなく代謝改善効果も認められており、肥満と同時に糖尿病、高血圧、脂質異常症の80%以上が改善することが報告されています。

保険適応となっている肥満外科治療は腹腔鏡下スリーブ状胃切除術のみです。この手術は腹腔鏡下にて行われ、胃の胃底部から前庭部までの大弯側を切除してバナナ1本程度の細長い胃を作り、胃容積を減少させる術式です。当科においても内分泌代謝内科の協力のもと、肥満外科治療を導入いたしました。

2020年1月より手術を開始しており、順調に症例を重ねています。適応と思われる患者さんがおられましたら一度、ご紹介いただければ幸いです。

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の保険適応（2020年4月改定）

6カ月以上の内科的治療によって十分な効果が得られない肥満症例で、

1) BMIが35以上場合

- ・糖尿病
 - ・高血圧症
 - ・脂質異常症
 - ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群
- のうち1つ以上を合併している

2) BMIが32.5～34.9かつ、糖尿病（HbA1c $\geq$ 8.4%）を合併する場合

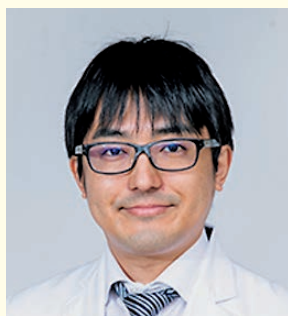
- ・高血圧症（薬物治療で管理が困難）
 - ・脂質異常症（薬物治療で管理が困難）
 - ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群（重症なもの）
- のうち1つ以上を合併している

TOPICS 2

脂肪肝外来 開設のお知らせ



川口 巧



堤 翼



中野 暖



山村 咲良

この度、久留米大学病院は脂肪肝外来を開設致しました。

脂肪肝は45歳以上の健診受診者の約40%に認められ、日常診療で遭遇する頻度の高い疾患です。また、現在、脂肪肝は肝がんや肝硬変の主な原因であり、定期的な検査と治療を要する疾患となっています。

脂肪肝の中でも肝臓の線維化が進行した（肝臓が硬い）方は肝がんの発症率が高く、予後が不良です。そのため、当院では、超音波やMRIなどを含めて肝臓の硬さを詳細に評価し、データをもとに患者さんに脂肪肝治療の重要性を理解して頂くよう努めています。

また、脂肪肝の原因は多岐に渡るため、医師、管理栄養士や脂肪肝療養指導士が共に患者さんに携わります。食生活の特徴だけでなく、患者さんの筋力や脂肪量の測定を用いた運動療法の指導、患者さんの気持ちや不安などの把握といった、チーム医療による包括的な診療を心がけています。さらに、一般的な治療に難渋する場合は、治験薬による治療も行っています。

私たちは、地域の脂肪肝診療のお役に立ちたいと考えております。脂肪肝の診断・治療などでお困りの際にはお気軽にご紹介頂ければ幸甚です。

久留米大学消化器内科

准教授 川口 巧

助 教 堤 翼

助 教 中野 暖

NASH療養指導士 山村 咲良

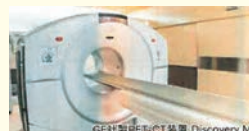
脂肪肝外来の特徴

- ① 非侵襲的な検査で肝臓の硬さ・肝臓内の脂肪量・体の部位別筋肉量を確認
- ② 肝がんのリスクを予測
- ③ 血液・画像検査ではわからない、患者さんの気持ちや不安などの確認
- ④ 生活状況や身体能力に応じた食事や運動療法のきめ細やかな提案
- ⑤ 脂肪肝に対する新薬の治験

TOPICS 3

久留米大学病院 2020年度 休日PETがん検診のご案内

通常は平日のみ実施していますが、休日検診のご要望が多く、地域の皆さまの健康管理推進のために、下記の日程にて休日PETがん検診を実施予定です（検診の価格は平日と同様です）。お車でお越しの際は、受診者専用の駐車場を設けていますのでご利用ください。



実施日 2021年1月17日(日)、2月14日(日)、2月21日(日)

Q PET検査とは？

A PETとはPositron Emission Tomography（陽電子放射断層撮影法）の頭文字をとった名称です。がん細胞は正常細胞に比べて活動が活発なため、栄養であるブドウ糖を多く取り込む性質があります。この性質を利用して、ブドウ糖類似体に放射性同位元素をつけたPET検査薬（FDG）を人体に投与して、がん細胞に集まったFDGから放出された放射線をPET-CT装置で撮影します。CTやMRIが病変の形を画像化するのに対し、FDGを用いたPET検査は働き（機能）を調べることができるため、主にがんの病期診断や転移・再発診断に用いられます。検査を受けられる方の負担も少なく、がんの早期発見にも貢献する検査法です。

Q PET検査の流れについて教えてください。

- A**
- ・検査の前に6時間以上の絶食をお願いします。
 - ・FDGを静脈に注射します。
 - ・体内にFDGが十分に行きわたる様、1時間程度安静にします。
 - ・PET-CT装置で撮像します。（約20分間）
 - ・撮像した画像をもとにPET認定医が読影し診断します。

より詳しく知りたい方やPETがん検診をご希望の方は、以下の問い合わせ先までお気軽にご相談ください。

問い合わせ申し込み方法

U R L <http://www.hosp.kurume-u.ac.jp/pet/>
 連絡先 0120-36-9849（フリーダイヤル）
 受付時間 01200～17:00（平日）



久留米大学病院 紹介予約センター 受診予約対応表

診療科	FAX	医療機関からの電話	患者直接予約
消化器病センター			
・消化器内科	○	○ ※	×
・消化器外科	○	○ ※	×
肝がんセンター	○	○ ※	×
循環器病センター			
・心臓血管内科	○	×	×
・心臓血管外科（心臓グループ）	○	○	×
・心臓血管外科（血管グループ）	○	○	×
呼吸器病センター	○	○	○
内科総合外来			
・脳神経内科	○	○	○
・腎臓内科	○	○	○
・血液・腫瘍内科	○	○	×
・膠原病内科	○	○	○
・がん集学治療センター	○	○ ※	×
・感染制御科	○	○	○
・遺伝外来	○	×	×
・睡眠医療外来	○	×	×
・もの忘れ外来	○	×	×

診療科	FAX	医療機関からの電話	患者直接予約
乳腺外科・一般外科総合外来	○	○	○
脳神経外科	○	○	×
産科	○	○	×
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	○	○	×
皮膚科	○	○	×
泌尿器科	○	○	○
整形外科	○	○ ※	×
歯科口腔医療センター	○	○	○
形成外科・顎顔面外科	○	○	×
緩和ケアセンター	○	○ ※	○
内分泌代謝内科・糖尿病センター	○	○	○
小児外科	○	○	○
小児科	○	×	×
婦人科	○	×	×
麻酔科	○	×	×
眼科	○	×	×
精神神経科	○	×	×
放射線科	○	×	×

※症状・状況によってはFAX対応になる場合がございます。
 ご不明な点がございましたら、紹介予約センターにお尋ねください。

患者さんご紹介の際には「紹介予約センター」をご利用ください
 （予約専用フリーダイヤル）電 話：0800-200-4897
 （予約専用フリーダイヤル）FAX：0800-200-9489
 ※非通知設定されている場合は、頭に「186」をつけてください
 （紹介予約センター 直通）電 話：0942-27-5673
 ※スマートフォン・携帯電話の場合は、こちらにお電話ください
 （紹介予約センター 直通）FAX：0942-31-7897